

第2回 「第2のふるさとづくりプロジェクト」 に関する有識者会議

令和3年11月17日(水)

観光庁説明資料

第2のふるさとづくりプロジェクトの概要について

- インバウンドが本格的に回復するまでには時間がかかるため、**国内観光需要の掘り起こし**が必要。
 - コロナの影響により、**密を避け、自然環境に触れる旅へのニーズが増加**。また大都市にはふるさとを持たない若者が増え、**田舎にあこがれを持って関わりを求める動きも存在**。
 - こうした新しい動きも踏まえ、コロナの影響により働き方や住まい方が流動化している今、
 - ① いわば「**第2のふるさと**」を作り、「**何度も地域に通う旅、帰る旅**」という**新たなスタイルを推進・定着**させ、
 - ② **地域が一体となって「稼げる地域」とし、地域活性化を図りたい**。
- なお、こうした取り組みは、二地域・多地域居住や移住の推進にも大いに寄与するものと考えられる。

① 滞在コンテンツ

お手伝い型なりわい観光コンテンツ提供

(三重県鳥羽市)



人材不足に悩むワカメ漁 ⇔ 社会貢献をしたい都市部人材
 → 体験にとどまらず、「第2のふるさと」化

地域の課題解決に参画するコンテンツ提供

(山梨県北杜市)



○ 多世代が集う社員研修の中で、地方部でコメ作りに参画
 ○ 荒地の整備から田植え、収穫までを経験。
 → 地域の課題解決参画により、「第2のふるさと」化

② 滞在環境

古民家活用による魅力的な滞在環境提供

(兵庫県丹波篠山市)



○ 古民家を活用し、宿泊、飲食等を通じて限界集落を再生
 ○ マルシェ等により新たな交流を創出し、魅力的な生業・居住環境等を提供

港町の個性的な空き家群を面的に再生

(広島県尾道市)



○ 地域に多数存在していて問題になっている空き家を改築し、地域の生活感ある新しい宿泊の受け皿を用意し、柔軟な滞在環境を提供

③ 移動環境

鉄道運賃 + 宿泊サブスクリプション



- J R 西日本と(株)KabuK Styleが提携
- 交通運賃割引・宿泊施設のサブスクにより、新たなライフスタイルを推進する実証事業を実施

日本初の観光型MaaS「Izuko」

MaaSを通じて提供しているサービス



- 伊豆の旅行において、鉄道、バスのほか、デマンドタクシー、レンタカー、自転車等目的地までの最適ルート検索、予約・決済が可能なシステム

「何度も地域に通う旅、帰る旅」が求めるもの

- 「何度も地域に通う旅、帰る旅」は、従来の観光／ビジネス滞在とはその移動・滞在スタイルが異なる。必ずしも都市－地方の移動を指すものでもなく、通勤、帰省のような二地点間の固定的な往復でもない。
- 複数地域のふるさと化や地方－地方の交流、職場のサテライトオフィス化等に伴う定期往来など、地域への関わり方やそのきっかけは様々である。その移動や滞在の形も、地域との関係性、同伴者、訪問・滞在の目的等に応じ多様であり、関係性の深化に伴い変化していくことを念頭に置く必要。

<暮らすような旅や仕事を持ち運ぶような滞在において、一般に求められる滞在・移動環境とは>

視点① 地域魅力を発揮し、仕事を持ち運ぶような旅に必要な機能が、「ヤド（宿ナカ）」にあるか。

「暮らすように滞在する」、「地域の中で仕事をする」ための機能があるか。「マチ」に緩やかに触れるため情報やきっかけがあるか。高頻度往来や長期滞在に対応した割引やサービスの工夫はあるか。

視点② 地域魅力を発揮し、仕事を持ち運ぶような旅に必要な機能が、「マチ（宿ソト）」にあるか。

安心と居心地があるか。まちで、いつでもリモートワークができるか。来訪者と地域住民の双方で共有され緩やかに交流を生む場、ホンモノに触れる場があるか（カフェや地元の食など飲食店、足湯、コワーキングスペース、そこだけの地域資源についての情報や、地域への関わりしろの紹介など）。

視点③ 地域魅力を発揮し、仕事を持ち運ぶような旅に必要な機能が、移動の「アシ」にあるか。

観光と生活が交わる新たな移動・滞在ニーズに適応できる柔軟な公共交通、手軽で自由な移動手段はあるか。高頻度往来や長期滞在に対応した割引や旅行商品、サービスはあるか。

視点① 「ヤド(宿ナカ)」

- ✓ 安心と居心地がある場があるか。「暮らすように滞在する」、「地域の中で仕事をする」ための機能があるか。
- ✓ 「マチに緩やかに触れる」ための手段やその情報、「さりげないきっかけ」があるか。
- ✓ 高頻度往来や長期滞在に対応した施設、割引やサービスの工夫はあるか。

<困ること(例)>

- ✓ 15時チェックイン、10時チェックアウト。
- ✓ コモンスペースがない（チェックイン前／チェックアウト後に仕事や打合せで使ったり、家族など同伴者がくつろげる場がない）。Wi-Fiや電波が弱い。キッチンがない、ランドリーがない。
- ✓ 宿の夕食の時間が限定的。一泊二食付のみ。昼食が食べられない。
- ✓ 近所に生活者向けの商店、薬局、スーパー、飲食店がない。
- ✓ 1人で泊るのに適した部屋がない。ゲストハウス、ビジネスホテル、ビジネス旅館しか実質的な選択肢がない。
- ✓ 「マチ」を知り、地域資源に緩やかに触れることのできる、楽しめるアクティビティ、気軽な体験等の情報がない（観光パンフレットor移住パンフレットのみ）。
- ✓ 交流のきっかけがない、多様性がない（地域の人がない、コモンスペースがない）。「そこだけのもの」がない。 など

<嬉しいこと(例)>

- ✓ 懐かしさがあると同時に、モダンで快適な空間だと、安心でほっとする。
- ✓ 野菜の生産者が、たまたま納品に来たついでに、食材の旬や季節の農作業について話してくれる。畑への来訪や、次の季節の再訪を示唆してくれる。
- ✓ 宿内に、カフェやライブラリーがあり、地域の人も宿内でお茶をしたり、温泉に入ってくつろいでいる。知り合いでなくても話しかけやすい環境がある。
- ✓ 宿内で、地域の魅力的な食材や工芸品、アートが使われており、さりげなく紹介してある。更に深く知りたい人のための情報や、ワークショップやガイドツアーが用意されている。 など

※実践者等からの聞き取りによる（今年度調査を予定）。

視点② 「マチ(宿ト)」

- ✓ 来訪者と地域住民の双方で共有され、緩やかに交流を生む「第3の場」があるか（カフェ、地元の食材を使った飲食店、足湯、コワーキングスペースなど）。
- ✓ 再来訪する理由、地域への関わりしろが感じられるか。
- ✓ マチでリモートワークができるか。

<困ること(例)>

- ✓ 地域資源に緩やかに触れることができる体験等に興味があるが、どこに行けばよいかわからない。
- ✓ 観光パンフレットや移住パンフレットのみ。自分の趣向にあった体験を紹介してくれるコンシェルジュがない。
- ✓ 交流空間がない、集まる人の多様性がない（地域の人と来訪者の両方がいるコモンスペースがない。観光客ばかり。特定志向を持ったグループのみで入りにくい、など）。
- ✓ 電源、携帯の電波、Wi-Fi等がある場所がない。
- ✓ 通話や会議ができる場所がない。
 - ・ 周音が放送で騒がしい（鉄道駅、コンビニエンスストア、ショッピングモールなど）。
 - ・ リモート会議や会話ができない（カフェ、レストラン、図書館など）
- ✓ 仕事中に、家族など同伴者が楽しめる場所がない。
- ✓ 食事をする場所がない（飲食店等の定休日、休憩時間等が皆同じ）。
- ✓ 快適な公衆トイレが近くにない。
- ✓ 図書館で本を借りれない。バス停がどこかわからない。 など

<嬉しいこと(例)>

- ✓ 気さくに話しかけられる、地域の会話に巻き込まれる。
- ✓ 地元の高齢者、子供、学生に挨拶され、囲まれ、縁側でお茶をごちそうになる。 など

視点③ 移動の「アシ」

- ✓ 「観光と生活の交わり」に適應できる地域公共交通、「手軽で自由な移動手段」はあるか。
- ✓ 高頻度往来や長期滞在に対応した割引や旅行商品、移動サービスはあるか。

<困ること(例)>

- ✓ 「生活」と「観光」で、公共交通や送迎の動線が別で、宿からバス等で目的地に移動できない（観光路線：駅⇔宿⇔観光施設、生活路線：駅⇔公共施設／商業施設⇔住宅地）
- ✓ 自転車や新たなモビリティなど、レンタカー未満の手軽で自由な移動手段の提供がない（レンタル／乗り捨てネットワークなど）。
- ✓ サイクルトレインなど「手軽な移動手段の持ち運び」に公共交通が対応していない。
- ✓ 長距離移動の交通費が高い。地域リピーター向けの割引運賃がない。
- ✓ 移動中に電源がない、携帯電波やWi-Fiがない。 など

<嬉しいこと(例)>

- ✓ 知り合いになった地域の人が駅まで送ってくれる。バスや電車内で通勤通学の方と一緒に、会話を聞く中で地域のことを知れる、生活感が感じられる。
- ✓ 地域NPOが、観光や移住者支援、自家用有償運送など地域社会の多様な役割を担っていて、必要な移動を一体で提供してくれている。宿が、地域の人や体験の紹介から送迎まで一体で提供してくれている。
- ✓ 宿や地域拠点が、レンタサイクルなど地域内の移動手段やガイドツアーを提供してくれている。
- ✓ サブスク型のマイカー利用／レンタカーが普及してきた など

※実践者等からの聞き取りによる（今年度調査を予定）。

- 多様な滞在スタイルに対応した、新たなアコモデーションの提供が始まっている。

地域交流の深度 ↑

リピーター、高感度層向け

積極交流層、
多頻度来訪/
長期滞在者向けに特化

より深い体験と学びを
そのまま滞在価値として提供

- ・ 他郷阿部家(島根県大田市)

- ・ あなごのねどこ(広島県尾道市)

企業の研修やサテライト化を
きっかけにした交流と滞在

- ・ ゲストハウス「禾と恵に咲くお宿 まつ」(島根県奥出雲町)
- ・ WEEK神山(徳島県神山町)

高付加価値、高価格帯

価格 ←

手頃な価格帯

ホンモノの地域体験と
プライベートで高質な滞りの融合

幅広いニーズに対応しつつ、新たな地域滞在スタイルを提案
緩やかに交流を誘発

- ・ 集落丸山(兵庫県丹波篠山市)
- ・ 小値賀島(長崎県小値賀町)
- ・ nagare(長野県飯島町)

- ・ YUMORI ONSEN HOSTEL(福島県福島市)
- ・ KONASTAY(静岡県伊豆の国市)

心身の解放や交流のきっかけづくり ↓

- 幅広い層の来訪者に、安心とくつろぎを感じさせる環境を提供することが肝要（例えば、旅館や古民家の様式を残すことで懐かしさを感じさせつつ、モダンで快適な滞在を提供するような、宿泊サービスの提供など）。その上で、再来訪の自発的動機を与え、交流や関係性の更なる深化をさりげなく促す「ヤド、マチ、アシの機能」が求められる。
 - ✓ 来訪者にとって、関係性が深まり、地域に定期的に訪問し暮らすように旅する中で、「地域に受け入れられた」と感じられる経験に触れたり、住民に準じた負担と受益の関係を段階的に持つことは、その地域への帰属意識を高め、更なる関係性の深化を加速する可能性があるのではないか。また「ヤド」や「マチ」が、滞在の快適性を提供すると同時に、関係性案内所や企業連携の場等を通じ、地域とのより深い関係性や次の来訪のきっかけをつくる機能を持つことが重要ではないか。
 - ✓ これらは、第2のふるさとに関わり続ける上で、来訪者の大きな一助となるか。また、関係事業者の連携や自治体・地域関係者の主導により、新たな交流・関係人口の需要を取り込みながら、地域住民の移動の足や地域社会の人的ネットワークをより持続可能なものとする上でも、極めて有用ではないか（例：過疎地域等における交流・関係人口の需要を取り込んだ自家用有償運送事業の展開など）。
 - ✓ 今後、安全や利用者利便の確保などを前提に、地方自治体の交通事業の共同経営の進捗などとも連携し、どのような旅行サービスや、割引やサブスクリプションなどのインセンティブのあり方が良いか検討を進めるべきか。また、地方自治体や宿泊事業者、交通事業者の果たすべき役割などを明らかにしながら、更なる能動的な取り組みやトライアルの積み重ねが必要ではないか。